

公立館林高等看護学院同窓会 ホームページ掲載に寄せて

公立館林高等看護学院 学院長 富澤悦子
(第13回生卒業)

公立館林高等看護学院同窓会の皆様、節目の年を迎え公立館林厚生病院はもとより、全国でそれぞれのお立場でご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。また、ホームページを開設すること、時代の流れを感じます。学院の卒業生も、令和4年3月までに第48回生1,505名を数えました。

さて、令和元年12月に、初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に日本を含む全世界にまん延しました。今年で3年目になりますが、未だ収束が見通せない状況です。学院では令和2年に、群馬県の方針に従い2か月間の臨時休校を初めて経験しました。また、カリキュラムどおりに臨地実習ができなくなり、急遽学内実習に切り替え、教員は模擬患者役や臨床スタッフ役や教員役など一人何役もこなしながら、学生の学びを支援しました。そして、改めて学生が臨地実習に出ることの大切さを認識しました。患者様やスタッフの皆様と関わることで、学生の心の成長は、他の何ものにも代えがたいことだと実感した次第です。

令和4年度は第5次カリキュラム改正の年にあたります。新カリキュラムにはこの地域の特徴を踏まえ、地域での多様な看護実践を学ぶ内容が組み込まれています。そのための実習時間も増加し、学生が何かと皆様のお世話になることも多くなるかと思えます。その際はどうかよろしく願いいたします。

また、平成9年4月に新築移転した現校舎は、築25年となりました。さすがにあちこち傷みが出ていますが、今でも訪れた方々からは「きれいな学校ですね。」と言われていました。修繕を重ねつつ学生たちと大切に使っています。また、同窓会よりいただいた講堂のグランドピアノも、まだまだ現役で頑張っています。これからも学生たちの成長を教員たちとともに見守り続けてくれると思います。

最後になりますが、公立館林高等看護学院同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。